

小学校児童の皆さんへ

通知表は、4月から今日までに皆さんが学校で頑張ってきたことの「一部分」を評価したものです。ですから「よくできる」の数だけを友達と比べて、喜んだり悲しんだりしなくても大丈夫です。大切なのは、自分が何を頑張ったのか、何ができるようになったのかです。頑張ることは勉強だけではありません。スポーツ、習い事や係の当番の仕事、友達にやさしくするなど、一人ひとり違っていいのです。人と比べるのではなく、自分らしく頑張りましょう。皆さんのこれからの頑張りを周りの人たちは応援しています。

保護者の皆さんへ

すべての子どもたちは、その子なりに一生懸命頑張っています。大人から見ると「もっとできるはず」と感じることもあるかもしれませんが、子どもにとっては、今日できたこと、昨日より少し頑張れたこと、勇気を出して挑戦したこと、その一つ一つが大切な成長です。だからこそ、できないことを指摘するのではなく、その子の良いところ、頑張っているところ、成長したところを見つけてあげてください。通知表の「よくできる」の数だけで、子どもの力や努力を測ることはできません。子どもの成長は、学習面だけでは表せないからです。

子どもが何かに挑戦しようとしたときには、結果を心配する前に、その気持ちを大切にしてください。そして、「まず、やってみよう」「失敗しても大丈夫だよ」などと背中を押してあげてください。子どもが困らないように、失敗しないようにと、つい先回りして手を出したくなることもあると思います。でも、子どもが自分で考え、迷い、試してみる時間も大切です。もし、子どもが迷っていたら、「どうしたらいいと思う?」「あなたは どうしたい?」と問いかけ、考える機会を作っていただければと思います。

子どもにとって家庭は、失敗しても受け止めてもらえる場所であってほしいと思います。時には、保護者ご自身の失敗談や子どもの頃の悩みを話すのもよいでしょう。子どもは学校で悩んだり、思うようにいかなかったり、自信をなくしたりすることがあります。そんな時に、安心できる家庭があれば、子どもは前を向くことができます。家庭の応援と愛情は、子どもの大きな支えとなります。

保護者の中には、偏差値の高い学校への進学や上場企業、いわゆるホワイトカラーの仕事に就くことを願う方もいるかもしれません。もちろん、学ぶことや進学を目指すことは大切です。しかし、日本の終身雇用の在り方が変化し、生成AIの急速な発展によってこれからの仕事の在り方も大きく変わっていくことでしょう。これからの時代に必要なのは、与えられた答えを覚えるだけでなく、自分で考え主体的に行動する力です。そして、コミュニケーション能力、問題解決能力、困難に直面しても、失敗を経験として次に進むことのできる『生きる力』も重要になります。子どもの今の成績だけを見るのではなく、「この子にはどんな力があるのだろう」とぜひ一緒に探してあげてください。それが、子どもたちのこれからの人生を支える、大きな力になるのだと私は思います。

